

管楽合奏は楽しい会？

No. 45 ポヘミア音楽の楽しみ II

2015年11月8日(日)14時開演 深川江戸資料館小劇場

コジェルフ (1747~1818) 「パルティータ 変口長調」全4楽章

(Ob-solo)土屋 (Ob)一宮/山本 (Cl)庄子/宮下(Fg)森川/尾作 (Hn)市原/平本

ミスリヴィチェク(1737~1781) 「八重奏曲 第2番」全3楽章

(Ob)楠原/山本 (Cl)景山/庄子 (Fg)大石/尾作 (Hn)山内/平本

ドヴォルザーク (1841~1904) 「ソナチネ 作品100」全4楽章

(Fl)信澤 (Ob)土屋/一宮 (Cl)兼氏/宮下 (Fg)阿部/大石 (Hn)中原/平本

----- Intermission -----

J. ライヒャ (1752~1795) 「パルティータ 二長調~八重奏」全4楽章

(Fl)岡添 (Ob)山本/楠原 (Cl)景山/庄子 (Fg)尾作 (Hn)市原/山内

「パルティータ 二長調~十一重奏」全4楽章

(Fl)信澤/岡添 (Ob)楠原/山本 (Cl)兼氏/景山 (Fg)阿部/大石 (Hn)中原/山内/市原

出演者の簡単なプロフィール(楽器別50音順)

(Cond & Fg/解説)森川 一 (もりかわ はしめ)

法政大学入学後ファゴットを始め、菅原眸氏に師事。同校卒業後、東京藝大別科で三田平八郎氏に、その後元ハンブルク州立劇場奏者フリッツ・ヘンカー氏に師事する。フリーの奏者として活動し今日に至る。78年より毎年ソロ及び室内楽の演奏会を開催。他にオケのトレーナー、文筆など多岐に渡る活動を行う。「管楽合奏は楽しい会？」及び「フルスヴァルト合奏団」「森川室内楽」などを主宰。リード製作者としても高い評価を得ており「森川ファゴット&リード倶楽部」を運営している。ファゴット演奏者倶楽部設立世話人代表及び「法政ファゴットの会」同人

(Fl & Cond)岡添 隆(おかぞえ たかし)

京都大学音楽部交響楽団でフルート奏者、学生指揮者として活躍する。フルートを佐々木伸浩氏、持田洋氏に、フラウト・トラヴェルソを森本薫氏に師事。現在はアンサンブル・メゾン及び東京アマデウス管弦楽団で演奏活動中で後者では現在副団長を務める。普段は某メーカーで化学の技術統括に携わる。「研究のアイデアは音楽で演奏する時のアイデアと共通するものがある」と主張し、部下達にあきられている。当会の指揮者も務める才人。

(Fl)信澤達也(のぶさわ たつや)

高校1年のとき隣席の友人の勧めでフルートを始め、東京大学音楽部管弦楽団に入寮、磯辺庄平氏に師事。卒業後は東京アマデウス管弦楽団で活動しており、2009年~2014年に団長を務めている。鉄鋼系化学メーカーで永らく研究職を勤めたが、現在は特許関係の仕事に移った。職場のビッグバンドに引っ張り込まれテナーサクスを担当、ジャズに目覚め、その自由度の大きさに魅力を感じるこの頃である。サクスは五十嵐正剛氏に師事。

(Ob)一宮悠子(いちみや ゆうこ)

中学からオーボエを始める。高校時代には鈴木繁、大学時代より渡辺潤也の各氏に師事。卒業後に地元仙台で就職したのを機に 念願のアマチュアオケに入団。以降もレッスンの度に高崎へ、また声が掛かれば喜んで上京し演奏活動をする日々を送っていたが、現在は埼玉へ移住し週末の音楽活動を楽しんでいる。平日は医療専門職として勤務。

(Ob)楠原千佳子(くすはら ちかこ)

中学からオーボエを始め、藤原勲氏に師事。東京大学音楽部管弦楽団を経て、現在は東京アマデウス管弦楽団及びアンサンブル・メゾンに所属。大学~大学院を通して、コンクリート相手の研究で手がザラザラした時期もあったが、現在は少し手にやさしい社会人となった。

(Ob)土屋英晃(つちや ひであき)

東京都出身。14歳よりオーボエを始める。桐朋学園大学音楽学部、同卒業演奏会出演。同大研究科修了。第12回別府アルゲリッチ音楽祭、ラ・フォル・ジュルネ・オ・ジャポン2011にオーケストラメンバーとして出演。2009年、市川市文化振興財団第22回新人演奏家コンクール管楽器部門で優秀賞を受け新人演奏会に出演するなど同財団主催の演奏会に多数出演。コンセール・ヴィヴァン第29回新人オーディション合格し優秀賞を得る。オーボエを藤村理子、宮本文昭、嶋崎耕三、浦丈彦の各氏に、また室内楽を白尾彰、岡本正之の各氏に師事。現在は洗足学園ニューフィルハーモニック管弦楽団及び洗足学園音楽大学演奏補助要員であり、Ensemble Le Creusetメンバー更に市川市文化振興財団フレッシュアーティストバンクに所属。

(Ob)山本悦子(やまもと えつこ)

川崎市立御幸中学校吹奏楽部でオーボエを始め、神奈川県立新城高校吹奏楽部、専修大学フィルハーモニー管弦楽団を経て、2001~2013年までエルムの鐘交響楽団にて、2014年からは合奏団ZEROにて活動中。2008年に菅原眸先生にご指導戴いているハルモニア合奏団で管楽アンサンブルを始め、「管楽合奏は楽しい会？」には2014年から参加する。最近、医療系図書館司書から病院応報担当に転職した。趣味は海釣りやサイクリングである。

(Cl)兼氏規雄(かねうじ のりお)

東京藝術大学附属高校を経て同大学卒業。ミュンヘン国立音楽大学留学。NHK洋楽オーディション合格。NHK「午後のリサイタル」等に出演。水戸芸術館「公募企画シリーズ」の第1回出演者に選出されリサイタルを開催。08年、東京オペラシティでのリサイタルについて、「音楽の友」誌上で絶賛される。水戸芸術館主催の「茨城の名手・名歌手たち」オーディション審査員、「茨城の演奏家による演奏企画」選考委員、茨城県の新人演奏会出演オーディション審査員、新人賞選考委員。また、日本クラシック音楽コンクールの全国大会木管楽器部門審査員も務める。現在、上野学園大学音楽学部、茨城大学教育学部、大東文化大学文学部講師、水戸ゾリステン代表。フルスヴァルト合奏団同人

(Cl)景山賢嗣(かげやま けんじ)

東京大学音楽部管弦楽団を経て、現在は東京アマデウス管弦楽団、ダングダーク管弦楽団に所属。これまでにクラリネットを平林邦男、兼氏規雄の両氏に師事。平日は大手情報通信企業にてシステムエンジニアとして勤務している。某コンビニATMの取引中継オンラインシステムを担当

(Cl)庄子穂奈美(しょうじ ほなみ)

1990年生まれ、宮城県出身。中学時代の吹奏楽部にてクラリネットを始め、高校からレッスンに通い始める。クラリネットを千石進、堀川豊彦氏に、室内楽を太田茂に師事。昭和音楽大学短期大学部卒業。

(Cl)宮下節子(みやした せつこ)

学生時代は東京大学音楽部管弦楽団で活動し、その後名古屋市内管弦楽団を経て、現在は東京アマデウス管弦楽団で演奏している。クラリネットを平林邦男氏に師事。平日は裁判所で働く国家公務員。

(Fg)阿部憲一(あべ けんいち)

京都大学交響楽団で活躍する。ファゴットを日名弘見氏に師事。現在は東京アマデウス管弦楽団、アンサンブル・メゾンで演奏活動。令夫人はプロのヴァイオリン奏者、二人の令息はヴァイオリンとチェロを弾き、令嬢は藝大卒の声楽家と言う音楽一家の大黒柱。欧米、アジア各地へ海外出張の多い国際派ビジネスマンでもある。2010年5月の楽しい会？出演後アメリカに赴任するが、2012年春に帰国後当会に復帰し、オケ活動も再開する。ファゴット演奏者倶楽部設立世話人の一人

(Fg)大石龍巳(おおいし たつみ)

京都大学交響楽団で活躍する。阿部氏の後輩である。現在はアンサンブル・メゾンで演奏活動中。本業は地方公務員。横浜で街づくりの仕事に携わっている。天気の良い日のランドマークタワーの眺望は最高とのこと。演奏会にお出での皆さん、横浜に行きましよう！

(Fg)尾作拓郎(おさく たくろう)

1984年生まれ、神奈川県出身。法政大学第二高等学校の吹奏楽部にてファゴットを始め、法政大学交響楽団を経て、同大学卒業後はシステムエンジニアとして大規模金融システムの開発をする傍ら週末に積極的に演奏活動を行っている。現在、狛江フィルハーモニー管弦楽団に所属。ファゴット演奏者倶楽部設立世話人の一人で「法政ファゴットの会」同人

(Hn)市原秀紀(いちばら ひでき)

東京大学音楽部管弦楽団で活動し、その間故・伊藤泰世氏に師事。博士課程修了後何度かの転職をするなど紆余曲折を経て現在は電池材料の研究探索をしつつ週末ホルン奏者。脇屋俊介氏に師事しながら東京アマデウス管弦楽団を中心に活動。それ以外にも大編成のホルンアンサンブル"Strudel Hornisten"、木管アンサンブル"Particles"を主宰してみたりしている。

(Hn)中原史生(なかはら ふみお)

京都大学交響楽団在籍中にホルンを小山亮氏に師事。大学院在学時に演奏活動から離れるも、就職を機に復帰。現在はアンサンブル・メゾン、茨城交響楽団で活動中。普段は海洋動物学が専門の大学教員をしており、唇の日焼け対策に苦労している。

(Hn)平本 彩(ひらもと あや)

埼玉県出身。12歳よりホルンを始める。桐朋学園大学、同大学研究科を修了し、現在は桐朋学園大学嘱託演奏員を務めている。在学中に京都国際音楽学生フェスティバル、ラ・フォル・ジュルネ 2014、音楽大学合同フェスティバル2015などに選抜されて参加する。これまでにホルンを根岸伊智郎、猶井正幸、田場英子の各氏に、室内楽を佛坂咲千生、猶井正幸、岡本正之、亀井良信、鈴木良昭、嶋崎耕三の各氏に師事。

(Hr)山内正晴(やまうち まさはる)

高校生の時からホルンを始め、いろいろなプロ奏者を聴いて手本にして勉強してきたので、特に師事したと言える先生はいない。現在、市川交響楽団に所属。楽器はドイツのアレキサンダー社製を使用。

本日はご来駕有り難うございます。さて、音楽は時に建築に例えられますが、楽譜は設計図と言えます。作曲家は設計士、演奏家は大工です。建築物と違って、命に関わる事がないのは幸いですが、出版されるものに間違いがある事です。有名な曲なら校訂された楽譜を多く集めて比べる事も出来ますが、管楽合奏はほぼ一つしかありません。設計図が間違っているとおかしな事になるのは楽譜でも同じですが、楽譜の場合は確かめるのが大変です。大工なら数値や歪みを見て修正するでしょう。我々は「音を出して変な音がすれば確認」の繰り返しです。しかし変だと思えるのは感覚ですから、変なのかどうかの判断がまた難しい。ジャズやロックに慣れた耳には普通に聴こえるかも知れません(笑)。練習中にああだこうだと言いながら直すんですが、結構楽しい作業でもあります。推理小説を読み解く様に、手掛かりを探して一步一步です。何回かやって漸く見付かる事も多いので、再演は必要ですね。さて本日演奏する楽譜もこういう段階を踏んで、お披露目の時を迎えた訳です。最後は皆様の耳をお借りして、その良し悪しを判断したいと考えております。

宜しければ、感想などお聞かせ下さい。メールアドレスは heckelfg@gmail.com です。

次回の演奏会は2016年5月7日(土)14時開演 深川江戸資料館小劇場